

睡蓮

S U I R E N

愛知大学
教育研究支援財団
広報誌

08

2021 / 4



巻頭特集【知の対話】

スマートシティが日本にもたらすもの。
変化する市民生活と、未来への可能性。

東京大学
先端科学技術研究センター
特任准教授

吉村 有司

名古屋大学
未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 教授

森川 高行

愛知県
経済産業局長

伊藤 浩行

Professional Eye

自分を育ててくれた恩師や仲間。
そのために自分が今、できること。

ジェイテクトSTINGS

浅野 博亮

祝 御報告! フランス共和国藝術文化勲章受章

日本画家

平松 礼二

〈寄稿「研究道半ば」・超大作「睡蓮交響曲」発表〉

知で生きる人へ。



AERS

公益財団法人 愛知大学
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION

[知の対話]

スマートシティが
日本にもたらすもの。
変化する市民生活と、
未来への可能性。

P.03

祝 御報告!

フランス共和国藝術文化勲章受章

日本画家 平松 礼二

(寄稿「研究道半ば」・超大作「睡蓮交響曲」発表)

P.08

[Professional Eye]

自分を育ててくれた恩師や仲間。
そのために自分が今、できること。

ジェイテクトSTINGS 浅野 博亮

P.10

[AERSの一年]

【教育活動の支援】

司法試験合格率日本一に寄せて等

P.12

奨励賞・奨学金授与式等

P.14

【寄附金名簿】

P.17

学長・後援会会長・同窓会会長・財団理事長
ごあいさつ

P.18

「睡蓮」について (題字「睡蓮」平松 礼二氏 筆)

愛知大学の教育思想は、国際社会や地域社会のリーダーとなり、世界をダイナミックに動かす人材を育てること。睡蓮の花言葉には、そのような人材に必要な「清純な心」「純粋」「優しさ」「信頼」の意味が含まれており、彼らの未来を支える愛知大学教育研究支援財団の情報発信誌を「睡蓮」と名付けました。

表紙のご紹介

平松 礼二氏 作
「睡蓮ジャポニズム」(2003年)

本作品は、まさしく日本の美の本質である装飾性、様式性、遊び心を織り込んだ象徴的な作品と言える。朱色の池に浮かぶ睡蓮と三日月と若冲の白い鳥、睡蓮に彩られた赤、そこに遊ぶ白い鳥と三日月は日本と欧州の美の交差をさせるように思う。



ごあいさつ

日頃、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」の活動に、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

戦前、中国・上海において、アジアで活躍する国際人を養成し、特に日中関係に貢献する人材の育成を目的に、海外に設けられた日本の高等教育機関であり、最も古い歴史をもつ名門・東亜同文書院大学。敗戦による閉校後、最後の学長であった本間喜一氏らが、「世界文化と平和に寄与すべき新日本の建設に適する国際的教養と視野を持つ人材の育成」を建学の精神とし、新設した大学が「愛知大学」であることから、東亜同文書院は愛知大学の祖といえるでしょう。愛知大学が開学から75年間で15万余の、そして今もグローバルな社会に毎年、優秀な人材を輩出し続けていることはこの精神が脈脈と継承されている証でもあります。また、2011年には社会に求められるより優秀な人材を育成するキャリア形成支援、学生の自立心を高め、積極的なチャレンジを促す課題解決型の正課外プログラム(ラーニングプラス)や海外フィールドスタディなどを拡充するため、名古屋駅前に新キャンパスを開設。東亜同文書院の理念実現のため、日々、愛知大学は進化し続けています。

しかし、時代は新型コロナウイルスの脅威をはじめ、世界を取り巻く情勢の変化や猛スピードで開発されるAIなどの先端技術により、大きな変革の只中にあり、大学と学生を取り巻く環境もめまぐるしく変化し続けています。このような不透明な時代に、愛知大学及び愛知大学生の教育研究活動への支援を行うため、2012年11月公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」が設立されました。

本財団が学術研究助成、課外活動支援、奨学金制度、キャリア形成支援をはじめとする諸事業を積極的に推進することができましたのも、この趣旨にご理解とご賛同をいただいております同窓会、後援会をはじめ、広く一般企業、個人の方からのご厚情の賜物でございます。そこで、賛助会員様をはじめとする皆様に当財団の事業内容をご報告し、成果を共有いただきたく、「睡蓮第8号」を送らせていただきます。ぜひ、ご高覧いただき、これからも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人
愛知大学教育研究支援財団

加藤 満憲

評議員・理事名簿(2021年4月現在)

評議員	地主 道夫	理事	加藤 満憲(理事長)
	近藤 薫		酒井 強次(常務理事)
	石川 健次		長谷川 信義
	西原 健二		古川 為之
	八木 好郎		那須 真理子
	堀田 久富		柘植 繁久
	杉本 みさ紀		土井 義昭
	金田 学		坂野 嘉昭
	武山 卓史		平井 治彦
	佐々木 康司		唐 啓山
	砂山 幸雄		中尾 浩
	吉垣 実		近藤 智彦
監事	吉本 理沙		功刀 由紀子
			小出 恭己
			南 成



巻頭特集

知の対話

東京大学 先端科学技術研究センター
特任准教授

吉村 有司

Yuji Yoshimura

名古屋大学 未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 教授

森川 高行

Takayuki Morikawa

愛知県
経済産業局長

伊藤 浩行

Hiroyuki Ito

スマートシティが日本にもたらすもの。
変化する市民生活と、未来への可能性。

最近よく耳にするようになったスマートシティ(Smart City)という言葉。近未来的技術が集積された都市のことかと思いきや、その目的はもっと現実的で、市民生活に根付いたものでした。研究開発の最前線に立つ森川氏・吉村氏と、行政の立場からその可能性を探る伊藤氏に、スマートシティの真の姿と、今後の方向性や可能性、愛知大学への期待を語っていただきました。

スマートシティの技術は手段。

目的は市民サービス向上。

ー 本日はお集まりいただきありがとうございます。まずは皆さんに簡単な自己紹介をお願いします。

森川／私の学術的バックグラウンドは土木工学、都市計画、地域計画、交通計画等で、工学とはいえ人文社会系に近い分野です。名古屋大学には1991年から在籍しており、愛知県や名古屋市、国の委員会等にも参加させてもらっています。最近は自動運転の研究も行っています。

吉村／私のそもそもの専攻は建築学です。AIによるビッグデータ解析に基づいた建築やまちづくり等を研究しており、スペインのバルセロナで長い間都市計画に携わっていました。その後2年ほどMIT（マサチューセッツ工科大学）に勤め、一昨年、20年ぶりに日本に帰国しました。日本の夏の暑さにいまだ戸惑っています（笑）

森川／私もMIT出身です。奇遇ですね。

吉村／はい。MIT時代には交通モデル等に関する森川先生の論文を愛読していました。

尊敬する先輩とお会いでき光栄です。

伊藤／私は名古屋大学から通商産業省（現 経済産業省）に入省し、2018年から愛知県におります。スマートシティという分野では、自動運転の実証実験で森川先生とも一緒にしましたし、ドローンの活用、空飛ぶクルマ等にも関わっており、スタートアップ等の新産業創出にも力を入れています。もともとこの1年はコロナ対策の方で手一杯なのですが。

ー では本題です。スマートシティとはそもそも何なのか。概念や目的を教えてください。

吉村／さまざまなテクノロジーを用いて市民生活の質を上げていこうという試みです。私がいたバルセロナはおそらく世界一スマートシティ化が進んだ都市なのですが、全てのプロジェクトが市民のためという目的を共有しており、だからこそ成功していると言えるでしょう。逆に日本では、インフラ整備やテクノロジーの実証に重きが置かれた時代が長く、本来の目的を見据えるようになったのはここ2～3年だと思います。もちろん考え方もライフスタイルも都市構造も違いますから、バルセロナやヨーロッパの技術をそのまま持ち込んでも、

日本でも成功するとは限りません。

森川／本質的な部分では吉村先生の言葉に尽きます。その上でどのようなアプリケーションが必要かとなると、たとえば私の分野では日本のモビリティ、すなわち交通システムの改革ということになります。国土交通省がスマートシティの先行モデル地域を20ほど指定しているのですが、防災、防犯、エネルギー、健康等テーマが多岐にわたる中で、大半の地域にモビリティが含まれています。愛知県では春日井市と岡崎市がモデル地域になっており、私は春日井市のプロジェクトに当初から関わっています。春日井市の中でも高蔵寺ニュータウンは、今は高齢化が進み、かつ坂道が多くてお年寄りが移動しにくい。そこに公共交通の自動運転技術をどう使えるかを検証します。

伊藤／行政の立場としても吉村先生のご意見には同意します。日本でスマートシティと言うとAIやICT、IoTといった先端技術のイメージが先行しがちですが、どのような技術であっても住民の皆さんの「こんなことができたらいいね」というニーズを叶えるための手法にすぎません。愛知県では2020年度、セントレア（中部国際空港。常滑市沖の人工島に建設）のある空港島、ジブリパークが間もなくオープンすることでも知られるモリコロパーク（愛・地球博記念公園）、西尾市で自動運転の実証実験を実施しましたが、どれも住民の方々に実際に試乗していただき意見を集めることから始めました。他にも物流ドローンは土砂災害で交通網が分断された地域や離島で、ロボットは主に介護の現場で、実際に使ってみて改善点や要望を県から開発者にフィードバックしています。スマートシティに定まったゴールはなく、街や地域ごとにニーズが異なり、形も違ってくるものです。

テクノロジーを用いて市民生活の質を上げていこうという試みです。



スマートシティ化が進んでいる
バルセロナ市内

東京大学 先端科学技術研究センター
特任准教授

吉村 有司氏

愛知県生まれ、建築家。2001年より渡西。ポンベウ・ファブラ大学情報通信工学部博士課程修了（Ph.D.in Computer Science）。バルセロナ都市生態学庁、カタルーニャ先進交通センター、マサチューセッツ工科大学研究員などを経て、2019年より現職。ルーヴル美術館アドバイザー、バルセロナ市役所情報局アドバイザーを兼任。

バルセロナの市民参加風土。

東海地方の企業参加風土。

ー 次に日本と世界のスマートシティの比較をしていただきたいと思います。

吉村／市民のためのスマートシティを象徴するのが、バルセロナで生まれた「デシディム（Decidim）」という名のオンラインプラットフォームです。これはバルセロナ市民なら誰もが参加でき、自由にスレッドを立て、自由に意見を述べ合うこ

とができる、掲示板群のようなものです。ここで熟議された市民発のテーマは市議会にて図られます。年間で市予算の3~5%をデシディム発の動議に使うことが実験的に始められています。デシディムの導入でスマートシティのフォーカスが一気に市民に移りました。またデシディムはオープンソース化され、現在では世界180地域ほどで利用されており、その中には日本の東京都渋谷区や兵庫県加古川市も含まれています。議論好きなヨーロッパの方に比べ日本人はどうなのかという懸念もありますが、デシディムに日本が得意なビジュアライゼーション(可視化)技術を組み合わせると、さらに進んだ、分かりやすいものになるのではないかと期待しています。実際に国土交通省が都市構造を3D化し、さらに建物ディテール等までわかる「プラトー(PLATEAU)」というオープンデータのシステムを先日公開したところで、日本もここまで来たかと驚かされました。

森川／プラトーは主に都市開発や建築土木のプロ・セミプロ向けだと思うのですが、ビジュアライゼーションをInstagramやフェイスブックなど、日本人が大好きなSNS上で実現できると、市民参加が進んで面白いかもしれませんね。

伊藤／ビジュアライゼーションの効果というのは私も実感していて、新しい街並みの構想を住民の皆さんに伝える際に利用すると、格段に理解してもらいやすくなりました。用途は少し異なりますが、モリコロパークでも自動運転車の中でAR(現実世界を背景に、モニター上に仮想現実を映し出す技術)サービスを行い、乗客に楽しんでもらおうという構想があります。東海地方は世界屈指のモノづくり王国ですから、実証実験に参加してくださる企業や団体、大学は無数にあります。たとえばトヨタグループさんが自動運転車両を提案してくださったり、名古屋鉄道さんが交通事業者として実証実験に参画していただきました。空港島でもセントレアの運営会社さんがとても協力的です。こういったものを作りたいとつぶやいただけで、誰かが用意してくれる素地があるのは素晴らしいことだと思います。

森川／自動運転の実証実験を行う際、公的申請のワンストップサービスという点で愛知県は非常に進んでいます。さまざまな省庁や地元自治体にまで申請が重複し

重労働だったのですが、愛知県は県庁に書類を提出すれば、後は県が調整してくれます。

伊藤／ありがとうございます。モノづくりを支えてきた県民性もあり、関係者の理解と協力が得やすいのかもしれないですね。

最大の壁となるのは 既得権益を持つ市民との 合意形成。

ー皆さんの取り組みや地域の現状について、もう少しお聞かせください。

森川／自動運転の分野では愛知県は日本の先端を走っています。名古屋大学でも独自プロジェクトとしてCOI(センターオブイノベーション)を立ち上げ「高齢者が元気になるモビリティ社会の構築」を目指し活動しています。免許を返納するような年齢になっても、心身元気に活動できる街づくりを考えようというものです。自動運転に関して日本は高齢化社会対応のラスト1マイルという期待が高いのですが、世界ではもっと先進的なことを追求していて、アメリカやヨーロッパ、中国では自動運転タクシーやマイカー無人運転の実現が迫っています。これは技術の差というより国や地域のニーズの差が大きい



名古屋大学 未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 教授 森川 高行氏

京都大学工学部卒業、同大学院修士課程修了、マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院博士課程修了。京都大学助手、名古屋大学助教授、MIT客員准教授を経て、2000年から名古屋大学大学院教授。専門は、次世代モビリティ、交通計画、都市計画、消費者行動論。著書に、「交通行動の分析とモデリング」(技報堂出版)、「道路は、だれのものか」(ダイヤモンド社)、「モビリティイノベーションシリーズ 第1巻 モビリティサービス」(コロナ社)。



神戸市都心部での自動運転公道実験(2019年)。後部座席に久元神戸市長、後方が本人。

高齢者が元気になるモビリティ社会の 構築を目指し活動しています。

です。一方トヨタさんが静岡県裾野市の工場跡地に計画するウーブンシティでは、国内でも既存の都市とは異なる、より先進的な取り組みが行われるはず。自社の土地で、更地から始めるスマートシティ実験都市ですから、何にでも挑戦できるし、ゼロから研究開発できる。ここで培われた技術を、既存の都市にも反映させていただきたいですね。

伊藤／空港島も新しい街のひとつで、しかも住民がいない特殊な環境ですから、スマートシティの実証実験には適しているのだと思います。住民の方の既得権を守る、既にあるものに規制をかけるというのは、難しい場合が多々ありますから。海外での合意形成はどうなっているのでしょうか？

吉村／社会文化の違いすぎて、日本で参考になる部分もならない部分もあります。スペインは民主化が1970年代と遅かったせいもあって市民の政治参加への意識が高く、街角に公園ひとつ作るにも延々と熟議され、時には反対デモさえ起こるような国です。熟議の末に妥協や合意が生まれるのですが、ひとたび合意してしまえば動くのは早い。それに対して日本人はそもそも自分の暮らす街への愛着が少ないから議論が起きづらいし、熟議が得意ではないところがあります。

そんな日本人にも、デシディムはけっこう向いているのかなと最近は思っています。コロナ禍で在宅ワークやオンライン会議が進んだように、これまで敬遠してきたものもテクノロジーで克服できることを皆が知りましたから。

ー スマートシティの実現に向けて直面する壁のようなものはありますか。

森川／いくつもあります。ひとつはいま話題になったように、既得権益です。ここには政治家も関与する場合があります。いっそう解決を難しくしています。もうひとつはプライバシーの問題です。ビッグデータの収集も日本人にはまだ抵抗感があります。また自動運転の分野で言えば、実は違法な路上駐車が最大の壁です。空いた道を進むだけなら自動運転技術の確立は難しくないので、違法駐車のコルマを躲して動くのは非常に難しい。

愛知県
経済産業局長

伊藤 浩行氏

愛知県生まれ、名古屋大学大学院工学研究科にて修士号取得。1999年に通商産業省(現 経済産業省)入省。消費者行政、研究開発、エネルギー政策、サイバーセキュリティ等の担当を歴任。2018年愛知県産業労働部長に就任し、2019年から現職。



国の重要文化財に指定されている「愛知県庁舎」

伊藤／閉鎖的な軌道を走るだけなら、リニモ(名古屋市東部と豊田市を結ぶ磁気浮上式鉄道。2005年開業)はすでに無人運転を実現していますからね。



吉村／森川先生の言われる通り、住民との合意形成は昔も今も最大の困難です。スマートシティを実現するための技術は数多く出てきていますが、スマートシティ化

何を選択するのか、 最終的には市民の意見やニーズに委ねられます。

のマネジメント手法はまだ議論が尽くされていません。この両輪をどう補完していくかが課題となっています。

伊藤／合意形成では私たち行政の活動が問われます。自動運転車、有人運転車、歩行者が混在する道路での新しい交通マナーの周知や徹底は行政の仕事です。個人情報の収集に関しては、コロナ禍で携帯の位置情報を使ったビッグデータ解析が一般化したり、顔認証による非接触サービスが普及したように、その有用性に関しては徐々に理解が深まっていると感じます。新しい合意形成レベルが生まれる機運のようなものを感じています。ただし、何をしても、首長をはじめ行政の側が市民に信頼されることが大前提となります。

ー 今後の課題や期待するものはありますか。

森川／コロナ禍により人々の価値観が変化し、黒船的なイノベーションが起きました。コロナ禍が収束しても完全に元に戻ることはないでしょうし、残っていくものも多いと思います。これを社会の様々なシステムを見直す機会とし、ポストコロナ時代の

新しい街づくりに活かしたい。先程述べたCOIも、計画は来年度末までですが、既にポストCOIとして共創の場の形成等が愛知県や各自治体の協力のもと動き始めています。街・地域・職場・人がサイバー空間と現実空間でどう結びつき、生き方や暮らし方、働き方、楽しみ方をどう改革していけるのか、期待しています。

吉村／ビッグデータの収集にしても、私はバルセロナ市街地に無数のセンサーを敷設し人の流れを解析したのですが、その頃に比べるとセンサーは格段に安価になっていますから、ハードルは低くなっています。バルセロナでは歩行者天国の導入も行いましたが、その導入もビッグデータ、特に店舗ごとのクレジットカード利用額を元に、ここを歩行者天国にすると店舗の売上が伸びると分析し市民に提案しました。このようにサイエンスの視点を反映させた都市計画が、今後は主流になるべきだと思います。個人情報の分野ではデコード(DECODER)という取り組みがバルセロナやアムステルダム、ロンドン等では始まっています。これはGAFA(Google、Apple、Facebook、Amazon)に代表される

大企業)のようなネットワーク企業が独占していたビッグデータのうち個人情報の部分を切り離して市民自身が管理できるようにし、必要に応じて切り売りできるようにするものです、保護と活用の両立を目指しています。

伊藤／愛知県では民間企業とともに「空飛ぶクルマ」構想を進めていますが、現在は大型のドローンに人が乗れる試験機が出来ており、飛行実験に成功したところです。ただ浮上するのは地上から1m程度で、まだまだ技術開発が必要です。落下した場合のルール作り等もこれからです。ただし同様の技術でドローンによる物流は現実的なものになっています。

社会的課題とスマートシティ。 そして愛知大学への期待。

ー スローライフやSDGsといった環境保全の流れには、スマートシティは協調していけるのでしょうか。

吉村／実は日本に戻ってからグリーンインフラに興味を持ち、研究を始めて

います。夏の暑さを凌ぐには木陰が有効だと実感したからなのですが。街並みの画像をAIに分析させて、街に植えられた樹種マップを作り、季節や時間帯ごとの日陰マップも作ろうとしています。

森川／電気も携帯電話も不要だというハードコアな自然派は別として、スローライフとスマートシティは相反するものではありません。自然の中で暮らしたい、余暇を田舎で過ごしたい、田舎暮らしながらも都会的ビジネスを行いたいという意識は誰にでもあります。その間口を広げるのにDX(デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術による生活や仕事の改革)が有効です。エネルギー分野でも大型発電所による集中的な発電から、小型発電所による分散的な発電を併用しようという動きがあります。その時、電力を作る、貯めるを最適化するのがICTです。どちらもスマートシティを支える技術です。

伊藤／分散型の発電というのは東日本大震災以降に顕著になりました。でも今は再生エネルギーの買取価格が下げられるなど逆風も感じられます。何を選択するのか、最終的には市民の意見やニーズに委ねられます。デンディムのような、それを組み上げるシステムづくりが求められています。

ー 少子高齢化、人口減少といった日本の社会問題にスマートシティが貢献できることはありますか。

森川／日本における少子高齢化は当面止まることはないでしょう。個人的には人口は5000万人程度まで減ると考えています。でも今の65歳の行動力は、一昔前の50歳程度に匹敵しますから、65歳を高齢者と決めつけるのはナンセンスです。80歳くらいまでは現役世代として社会にアクセスできる、そんな環境づくりがスマートシティなら可能です。一方で内需による経済活動の縮小は避けられませんが、そこはグローバル化を進めるしかないでしょう。韓国が成功していますから、日本も負けるなど言いたいです。

吉村／人口減少と言いますが、それに伴い都市がどう縮小しているのかを知る基礎的なデータすらないのが現状です。ストリート等のミクロなレベルでそれを得られれば、より詳細な街づくりとして備えができると思います。現在私は衛星による夜間人口画像を

元にしたものと、街並み画像を元にしたもの、2種類の方法で人口減少の分析、予測ができないか研究中です。

伊藤／確かに人口減少は不可避です。その中でどのような社会に変えていくかは、行政の課題です。しかし日本国籍を持つ人は減っても、海外からの移入者で人口が増えていく可能性もあります。それも見据えて、街づくりに反映させていく必要があります。

森川／日本とは反対に、世界は人口爆発を迎えています。それを抑制するために必要なのは教育、特に女性への教育です。アフリカ奥地の住民でも携帯電話を持っている時代ですから、デジタル技術がそこに役立ちます。もし国家が誤った方向を向いたとしても、世界的な人のつながりを生み出すDXが歯止めとして貢献できるかもしれません。

吉村／スペインは多くの移民を受け入れてきた歴史があります。また日本に次ぐ長寿国でもあります。でも街角の老人は幸せそうなのですね。スペイン人は世界一生活を楽しんでいるとも言われますが、そのために行政が全力でサポートし続けてきました。日本も学ぶところは多いと思います。

ー 最後に愛知大学への期待をおうかがいします。

森川／スマートシティでは技術論が先行しがちですが、技術をどう評価するか、いかにして市民参加させるか、ビッグデータをどこで集めどう活かすかといった枠組み部分や、スマートシティで人々が幸福になったのかを観測し評価

するのは、人文社会系の知識が必要です。愛知大学の学生さんや卒業生の皆さんにも、積極的に関わってほしいと願います。

吉村／いろいろなプロジェクトに関わってきましたが、今はまだエンジニアリング寄りのものが多い。これからのプロジェクトで主役になるのは人文社会系の力です。そして学生が参加して心躍りワクワクするようなプロジェクトでないと未来はないと考えています。ぜひ愛知大学の学生さんにも参加してほしい。

伊藤／いまやスマートシティの世界では理系か文系かといった線引すら難しいのかなと感じています。法律も心理学もデータベースも、ひと通り理解できる人材が求められています。大学で専門にとらわれず幅広く学ぶことは大切です。また大学では「こんな社会に住みたい」「こんなことをしたい」という将来の夢を育てて巣立ってほしい。それが新しい街づくりの原動力になります。

森川／特に名古屋キャンパスは、ささしまライブという新しい街を舞台としています。ここをスマートシティの一丁目一番地にするような気概を、大学側にも学生にも持っていただきたい。

吉村／愛知県出身者として、今日名古屋キャンパスを訪れ、かつてJR操車場だった場所の変わりように驚かされました。いろいろなことができるポテンシャルのある空間です。ぜひチャレンジしてください。

ー 貴重なお話をうかがえました。皆さん本日はありがとうございました。

森川・吉村・伊藤／ありがとうございました。



祝 御報告! 平松礼二画伯、フランス共和国藝術文化勲章受章

平松画伯のこれまでのクロード・モネの研究やフランスでの活動及び日本画による文化交流の功績が認められ、フランス政府からフランス共和国藝術文化勲章シュバリエが在日フランス大使館において、3月24日に授与されました。誠におめでとうございます。なお、平松画伯から「研究道半ば」とした寄稿を特別にお寄せ頂きました。平松画伯の今後益々のご活躍を心から祈念申し上げます。

「研究道半ば」

令和3年3月 日本画家 平松礼二

県立旭丘高校の美術科に入学し日本画を知った。高校で基礎技法を学んだが、在学中に故・横山操画伯(東京)の作品群に心を奪われ早速画伯の所属する青竜社という会派の研究所に入門し、幸い入選を果たし日本画家になろうと決心した。高校卒業時クラスメートは東京や京都の美大へ進学したが、私は熟考の末、中国に縁のある大学・愛知大学へ進んだ。将来、中国・朝鮮の勉強をしつつ絵を描きたいと願ったからだ。茫洋とした中で、日本の文化の源流はどこにあるのか、時間をかけて探り出したい。それを作品の中に表出して行けたらという願いだった。画家と日本文化探求は二足の草鞋を履いての旅立ちだったので経済的に苦しんだが、アルバイトの鬼となって必死に研究費を稼ぎ前に進んだ。中国への旅は政治的事情も当時は厳しく、その前に朝鮮半島の李朝文化に的を絞り、当時名古屋の大曾根にあった大韓民国居留民団の民族学級に入れて頂いた。日本人は私一人で心細かったが、夜間部で歴史やハングルを勉強し、終了後半島へ旅に出た。

そして10年が過ぎ、ようやく中国への道が開けた。グループに中国人通訳がついての旅で、主に歴史・民族関係と美術の研究が目的だったが、やがて光が差し込んだ。愛知大の先輩で故・青木光利さん(当時、日中人材協会)が留学への道をつくり、交換研究員として北京故宮博物館の許可をとって下さった。愛知大入学時から随分時間がかかったが、夢は実現し、研究成果として故宮全建築群の写生と装飾品の120点を現地で纏め上げた時は3か月余が過ぎていた。それから仏教伝来の源流捜しにインド大陸へ向かったが、広大な地に長大な研究対称と自爆的に挫折した。

帰国してもう一度仕切り直すと、日本の四季などに静かになるモチーフを選んで描いていたが、東京銀座の資生堂ギャラリーの人から考えてもいなかったアドバイスを受けた。平松さんの作品はヨーロッパ向きでは?と。彼等はスポンサーとなり、あっという間にパリの凱旋門近くのJALギャラリーに個展会場を設営して下さい。はじめてのヨーロッパ・パリで、糸の切れた凧のようだったが、これが私のフランスデビューとなった。初日のレセプションで、飲み過ぎたワインの酔いを醒ますため公園を散歩する時、一軒の美術館が目に入り妻と二人で覗いてみた。そこに超大作睡蓮(クロード・モネ作)があつて衝撃を受けた。稲妻が体に突き刺さったような。この稲妻の正体は何なのだ。91Mに及ぶ画面にパースペクティブなく、人物もいない。ただし、光と時間、季節の移ろいが目に飛び込んでくる。西洋の画家が描いた作品の中に、日本美の特質の装飾性や様式性、遊び心がふんだんに織り込まれている。この不思議さに、私の探求心に新しい炎が燃えはじめた。

中国への旅をこの辺りで一時中断し、パリでの日本文化の源流捜しの旅を決意したのは50歳を越えた頃だった。以来、30年間の時間を日本文化芸術とフランス・ヨーロッパのジャポニスム—日本趣味の発生と爛熟の研究・発表を続けている。研究途中で、フランス学士院やフランス・ドイツの公立美術館のキュレーター、日本の外務省、国際交流基金などの支援を受けて、研究発表会や展覧会を現地で度々開催頂き、現地の研究者たちからの推薦で、この度2020年叙勲(事情で遅れたのか)フランス共和国藝術文化勲章シュバリエを受章することになった。気力・体力的にはもう少し研究発表を続ける時間もあり、従ってこの小文の表題は「研究道半ば」とした。振り返れば、少年の頃「少年よ大志を抱け」と良く耳にしたが、それが私にとって灯台だった。



フランス共和国藝術文化勲章受章風景

■ 超大作「睡蓮交響曲」の発表

世界を魅了する国際的日本画家平松礼二氏は、愛知大学卒業生で、愛知大学名誉博士であり、車道キャンパスの愛知大学創立50周年記念ステンドグラス「日本の新しい朝の光」や名古屋新キャンパス記念モニュメント「愛の塔」、名古屋新キャンパス完成記念「モネの池・金色の雲」の製作を始め、学内での展覧会開催や記念講演を頂くなど、愛知大学の隆盛発展に多大なご貢献を賜っております。

その画伯の人生の集大成をかけた新たな作品、総延長90M、高さ2Mに及ぶスケールの大きな屏風『睡蓮交響曲』がこの度発表されました。画伯によれば、フランスの巨匠クロード・モネの「睡蓮」をテーマに、日本人の感性と視線、日本画材を駆使して制作するとどのような作品になるか、という研究心からで、構想から約3年をかけ完成された超大作です。この全作品の内覧会は、余りにも超大作のため湯河原町民体育館で、令和2(2020)年12月7日に開催されました。広い体育館が非常に狭く感じられるほどの圧巻の作品群で、観る者を圧倒する迫力に、寒い冬にも関わらず、館内は熱気に溢れていました。なお、この「睡蓮交響曲」は、令和3(2021)年3月5日から6月28日にかけて「町立湯河原美術館」で、平松礼二館15周年記念特別展として展示されています。前期3月5日～4月27日、後期4月29日～6月28日の二期に分けて展示されていますので、ぜひ町立湯河原美術館で、ご鑑賞賜りたいと存じます。



「睡蓮交響曲」内覧会風景(湯河原町民体育館)



町立湯河原美術館平松礼二館15周年特別展風景

こちらのQRコードから
紹介動画をご覧いただけます。

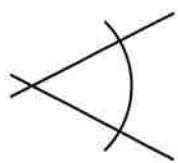


〈湯河原町民体育館〉

湯河原美術館
公式ウェブサイト



〈湯河原美術館〉



Professional Eye



自分を育ててくれた恩師や仲間。 そのために自分が今、できること。

featuring

ジェイテクトSTINGS

浅野 博 亮

あさの ひろあき

長野県安曇市出身。2013年 愛知大学経済学部卒業。大学では2歳年上の兄と共にバレーボール部の中心選手として活躍。ジェイテクトSTINGS入団後も1年目から多くのゲームに出場。2015年から2018年まで日本代表に選出される。主なポジションはウイングスパイカー。

兄と共に戦い勝利した、
愛知大学バレーボール部での4年間。

バレーボールの国内最高峰、Vリーグ・デヴィジョン1。そこに愛知大学出身者がいる。愛知県刈谷市をホームとするジェイテクトSTINGS、浅野博亮だ。

「父も母も兄もバレーボールをやっていて、物心つく前からコートに出入りしていました。自分では覚えていないのですが、5歳の頃には、僕もやりたいと始めていたそうです」

長野県はジュニア世代のバレーボールが盛ん。しかも生粋の

プレイヤー一家出身。少年は地元でも一目置かれる存在になっていた。そんな彼が故郷を離れる日が訪れる。大学への進学だ。愛知大学へは先に兄が進学しておりバレーボール部の主力選手となっていた。そんな兄と、当時の監督の熱心な誘いが後押しした。「2歳離れていると、高校までは兄と一緒に試合に出る機会はほとんどありませんでした。それが大学で2年間一緒に戦えた。しかも兄は守備的なリベロ、私は攻撃的なウイングスパイカーでしたからポジションが被ることもなく、2人同時にコートに立つことが多くなりました。楽しかったですね」

浅野兄弟を中心に据えたバレーボール部は黄金期を迎える。浅野が2年、兄が4年の年、東海大学リーグ4連覇、そして西日本インカレ初優勝を飾る。キャプテンも務めていた兄の卒業後、その役割は浅野のもとに回ってきた。

「高校まではずっと自分の好きなようにプレーさせてもらっており、周囲への気配りなど考えもしませんでした。それがキャプテンという立場になって気持ちが空回りし、他の部員に無理を強いるようになっていました。当然チームの和は乱れます。大喧嘩の末、腹を割って話す時間が生まれ、そこからです、新しいチームに結束が生まれたのは。まとめ役としてのキャプテンではなく、自分らしいプレーや雰囲気作りで仲間を引っ張っていかうと開き直れました」そして浅野の卒業まで、バレーボール部は東海大学リーグで優勝・準優勝を繰り返す。

社会人チームから日本代表へ。 そして故障、リハビリの日々。

そんな彼に目をつけたのが、当時2部にあたるV・チャレンジリーグで戦っていたジェイテクトSTINGSだ。だが自身は当初、大学限りで現役を引退するつもりだったらしい。

「全国的には無名で、身長も178cmと低い。社会人では無理だろうと就職活動を始めましたが、気持ちの切り替えがうまくいかなくて。そんな時、指導者にならないかとの誘いと、ジェイテクトSTINGSからの誘いが、同時に舞い込みました」

当時の彼にとっては、どちらも魅力的な進路だった。悩んだ末に帰省し、かつての恩師らに相談する。

「自分の教え子から1人くらいVリーガーが輩出してほしい。そうおっしゃるんです。恩師の皆さんへの恩を返すには、これしかないだろうと」



ジェイテクト体育館 外観

ジェイテクトSTINGS入団を決めた浅野。内定が出た段階でチームに合流し、早々にレギュラーの座を掴む。卒業そして正式な入団と同時にチームはV・プレミアリーグ(現在のディビジョン1)昇格を果たし、着実に力をつけていった。そして大きな転機が訪れる。2015年、日本代表入りを果たしたのだ。「信じられませんでした。でも猛練習を積み重ねてきましたから、それが実ったと思うと感無量。代表入りして1年目は、大きく成長できました。プレーが良くないと次は呼ばれないという緊張感が常にあり、まさに死にものぐるいです。負けるのも恥をかくのも大嫌いな性格が、良い意味で支えてくれました」

小柄ながら要所で光るプレーを見せる浅野は、ファンから『小さな巨人』と呼ばれるようになる。さらに、隠れた才能を見出され、リベロなどの守備メンバーとしても活躍。代表定着を果たす。



「自分に守備ができるなんて思ってもいませんでした。でもやってみると、こぼれ球を拾うのが得意で、サーブレシーブも上達しました。新たなストロングポイントの発見です。その後はジェイテクトSTINGSでも守備に加わることが多くなりました」順風満帆に思えたバレーボール人生だが、落とし穴が待っていた。2019-2020シーズンが始まったばかりの2019年11月、右肩を故障。1か月の治療後復帰するも、痛みは引かずパフォーマンスが戻らない。皮肉なことにそのシーズン、ジェイテクトSTINGSは初のディビジョン1優勝を果たす。

「私の代わりに若手が頑張ってくれました。優勝はうれしい。でも一選手としては複雑極まりない心境でした」

バレーボール界への恩返しのため、 故郷で立ち上げたスポーツNPO。

リハビリに終始することとなった2020年、しかし浅野は新たな挑戦を始めている。NPO法人「VRAVO N plus(ブレイボ・エヌ・プラス)」の発起人に名を連ねたのだ。故郷の長野県安曇野市を拠点に、スポーツを通じて青少年育成や地域発展に貢献しようという団体だ。講師参加予定者には現役が5人以上、OBを合わせると20人以上のVリーガーが揃う。その中にはジェイテクトSTINGSでのチームメイトも複数いる。

「ここまでバレーボール一筋の人生を歩み、育てられてきました。長野の友人たちとも話し合い、そろそろバレーボール界への恩返しを始めようと思ったのです。まずは地元でとなりましたが、ゆくゆくは全国へ活動を広げていけたらいいですね」

最後に、母校・愛知大学への思いを聞いてみた。

「愛知大学バレーボール部には、部員たちが自ら考え行動する風土があります。実はその経験は社会に出た際にとても役立ちます。面倒臭がらず、もっと考えて挑戦し続けてください。部活動に限らず大学は自主性が尊重されます。だからといって遊び呆けるのではなく、学問を一番に組み立ててください。私自身、決して学業をおろそかにしていたわけではないのですが、卒業後はもっと学んでおけばとの後悔の繰り返しです」

まずは故障を治し選手人生を全うすることが目標だと語る浅野。その後は指導者の道も視野に入れている。いつか監督やコーチとして愛知大学バレーボール部に戻る日が来るのかもしれない。

AERSの一年

(アース)

明日の地域社会に貢献する人材を育成する

愛知大学教育研究支援財団(愛称^{アース}AERS)の一年を振り返りました。

「^{アース}AERSとは:AICHIUNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION(愛知大学教育研究支援財団)の頭文字を合わせた愛称です。^{アース}AERSは、より良い明日(アース)に向かおうという思いも込められています。」



教育活動の支援

司法試験合格率日本一に寄せて

愛知大学法科大学院院長(2020年度時)
伊藤博文

2020年愛知大学法科大学院の司法試験合格率は77.8%(9名受験で7名合格。全国平均が39.16%)で全国1位である。あまたの有名大学法科大学院の合格率を凌駕して、栄えある1位獲得という成果をもたらしてくれたのは、もちろん司法試験合格した7名の愛知大学法科大学院修了生であることはいまでもなく、これまで法科大学院を支えてきてくれた教職員、同窓生、大学関係者の尽力無くしては成し遂げ得なかった結果である。あらためて関係する皆様方からのご支援に感謝したいと思う。

法科大学院を取り巻く環境は依然厳しく、2004年に始まった法曹養成の専門職大学院である法科大学院は、当初全国に74校あったが今や35校までに減っている。その残された法科大学院間で生き残りをかけて日々競争が行われている。法曹を目指そうとする人の数も激減し、入学者の定員割れを起している法科大学院が大多数である。愛大も例外ではなく厳しい状況が続いている。2015年には愛知大学法科大学院の存廃について学内で大議論されたことは記憶に新しい。愛知大学法科大学院が存続するには、愛大のお荷物ではなく、愛知大学の広告塔として確実に司法試験合格率で成果を挙げ続けることが至上命題とされてきた。この点は法科大学院の教職員や院生にも染み渡っている。今回はこの役割を大いに果たせたと思う。これまで愛知大学法科大学院は、「伝説の1期生」として修了第1期生がもたらした2006年司法試験での快挙が語り継がれてきた。合格率72.2%、全国3位、私立大学ではもちろん第1位という成果だった。初代院長の新堂幸司先生(愛知大学・東京大学名誉教授)が、この成果を「団体戦」で勝ち取ったと表されたことは今も院生に語り継いでいる。ここから愛知大学法科大学院が快進撃を続けるのであるが、その道のりは平坦ではなかった。合格率が伸び悩んだ時期もあった。そして、今回の快挙でもって「伝説の2020年度受験生」という新たな伝説を生み出すことができたのである。「法科の愛大」という言葉を目にして、愛知大学の先輩方は今回の成果に頷いていただけるのではと思う。本間先生、小岩井

先生が礎を作り中部地区で最も古くから法学教育を行ってこられた伝統ある大学の輝かしい歴史を継ぐことができ、万感の思いがこみ上げて来るのを共に分かち合えるのを幸せて感じている。「高らかに我等が愛知大学の名を讃えよ」、愛知大学の伝統に恥じぬ成果をここに刻めたことを誇らしく思うとともに、あらためて支えていただいている皆様への感謝の気持ちを伝えたいと思う。ありがとうございました。愛大法科大学院はこれからも頑張りますので、篤いご支援を今後もお願いいたします。





海外活動の支援

江蘇杯中国語スピーチコンテスト 日本・中国オンライン開催

江蘇部会長・公財愛知大学教育研究支援財団評議員
砂山 幸雄

2020年12月12日(土)、江蘇杯中国語スピーチコンテスト(主催：江蘇国際文化交流センター・南京大学・愛知大学)が開催されました。2015年度から中部東海地区の高校生、大学生を対象に、愛知大学を会場として実施してきましたが、COVID-19の影響を受けた今回は、大学・中上級の部のみを対象とし、初の日本・中国オンライン接続での開催となりました。

竹内亮氏(ドキュメンタリー監督・南京市在住)には、「僕が中国で生きる理由」をテーマに、愛知県江蘇省友好提携40周年を記念し南京市内からリアルタイムで講演をいただきました。50人を超える聴衆は、現地からの生の声に引き込まれました。

南京大学友好提携大学を含む学生(5大学16名)は自宅などから接続し、南京大学の先生が現地から出題する中国語の質問に、日頃の成果を精一杯発揮しました。

1等賞及び愛知県江蘇省友好提携40周年記念賞を受賞した、愛知大学現代中国学部4年の岩井佑梨奈さんは、「难忘的

“雷鋒号”旅途(忘れられない『雷鋒号』)」をテーマに、留学中の小さな体験をスピーチしました。約14億人もいる中国の一地方都市で、偶然出会った中国人の思いがけない優しさは、普段私たちが耳にするニュースでは分からない日常的一幕で、心を打つものがあります。

2等賞を受賞した愛知大学現代中国学部2年の森万季子さんの「異文化を理解し尊重するということ」は、自らが体験した日中両国における「ありがとう」の違いが語られています。1年生のうちから本大会に挑戦し続けるその前向きな姿勢は、評価に値するものです。この大会は、スピーチの優劣を競う単なるコンテストではなく、聴講する側もまた、学生のスピーチから隣国中国を理解する様々な気づきを得る機会でもあります。ともすれば、聞きかじりの偏った知識だけで理解したつもりになる異国の文化ですが、正しく理解し、相手を尊重することが一番大切なことです。中部東海地区の皆様に、広く聴講いただけると幸いです。(学年は大会当日)

忘れられない「雷鋒号」(日本語訳文)

瀋陽の東北大学に留学し、私が最も忘れられないことは「雷鋒号」です。「雷鋒号」とは撫順から瀋陽までの長距離バスの名前です。中国をもっとよく知りたいとの思いから、私は瀋陽に隣接する撫順市にわざわざ半年間家をかりて住んでいました。そこから学校まで片道で2時間かかります。私は毎朝5時過ぎには起床し、雷鋒号バスに乗り瀋陽駅まで行き、それから地下鉄やバスに乗り換え、通学していました。

「雷鋒号」のバス停はありましたが、時刻表は無く、乗りたい人は手を振って合図をすると車を停めてくれます。これは私にとって全く新しい体験で、最初は慣れませんでした。後には日常になりました。旅の途中、なんと、道路で馬に乗っている人や羊の群れを連れて歩いている人をよく見かけました。これは今の日本ではどんな田舎でも見ることはできません。それだけでなく、私は撫順という小さな町の魅力にも気が付きました。撫順の発展は瀋陽より遥かに遅れていますが、撫順の人々は瀋陽の人々より、より素朴で温かみがあります。撫順の交通は瀋陽ほど混雑しておらず、瀋陽ほどの賑わいはなく、物価も安価です。

当然、私の最も大きな収穫は中国人に対する理解を深めたことです。私は普通毎朝6時15分ごろの「雷鋒号」のバスに乗っていました。運転手はいつも50代のおじさんで、何度も利用するうちに、その運転手さんと挨拶を交わすようになりました。ある時、母が北京まで私に会いに来てくれました。その朝、私は重い荷物を持って雷鋒号に乗りました、また同じ運転手のおじさんでした。彼は

現代中国学部4年(2020年度時)
岩井 佑梨奈

わざわざバスを降りて、荷物を車内まで運んでくれました。さらに私に、「毎日朝早くから大変だね、お疲れ様。」と言うので、私は「今日は北京まで母に会いに行きますが、普段は東北大学まで通学しています。」と返しました。彼は私の話を聞くと、静かに10円を私に返し、そして私に言いました。「今日はおごるから、お母さんによくして安心させてあげて。」私は驚いて何というべきかわからず、ただ繰り返してお礼を言うしかありませんでした。一部の欧米人が中国を外面は冷たく、内面は暖かい「魔法瓶」と呼ぶ、と耳にした事があります。私は実際に、この「魔法瓶」を身をもって体験できたように思い、とても幸せに感じます。

私が学校寮を出て撫順に引っ越したことは、「雷鋒号」バスに乗る機会を与えました。そしてその「雷鋒号」で私は視野を広げ、見聞を増やし、中国や中国人に対する認識を深められました。私は撫順での生活を選択した自分の勇気を誇りに思い、雷鋒号からの収穫に有難みを感じています。だから私が忘れられないのは「雷鋒号」とあの運転手のおじさんなのです。是非機会があれば、瀋陽に赴き、「雷鋒号」に一度乗ってみてください。



留学先の先生と共に





教育活動の支援

加藤新太郎著「法学部生の学修戦略—— 学びの気づき、ヒント、実践」を糧にして

愛知大学法学部教授・
愛知大学教育研究支援財団評議員
吉垣 実

愛知県岡崎市ご出身の加藤新太郎先生（中央大学法科大学院教授・弁護士、元東京高等裁判所部総括判事）が執筆された「法学部生の学修戦略——学びの気づき、ヒント、実践」は、2019年11月15日（金）に名古屋キャンパスで行われた法学会主催の講演会の記録として、愛知大学法学部法経論集223号（2020年）121頁以下に掲載されています（以下、「法学部生の学習戦略」とします）。作成費用（テープ起こしおよび抜刷りの増刷費用）は、愛知大学教育研究支援財団（以下、「財団」とします）にサポートして頂きました。

法学部生の学習戦略には、法学部生が法学を学んでいく上でのヒントが多く示されています。「正しい勉強の仕方をしていく限り、今はあまり分からないことでも時間をかければ必ず分かるようになる。時間がほとんど全ての問題を解決してくれる」との記述は、教育のみならず研究にも当て嵌まることであり、時々読み返し、怠惰な自分を律しています。

加藤先生には、講演会のみならず専門演習「民事訴訟法」（以下、「Aゼミ」とします）公開ゼミナールでのご指導もお願いしました。（愛知大学ホームページ2019・11・21「教育・研究・シンポジウム」に2つの記事が掲載されています）。その中で、ゼミ指導の在り方についても多くのヒントを頂きました。

2020年度から、これまで担当しているAゼミの他に、法的素養を身につけてもらうことを目的とした演習（以下、「Bゼミ」とします）を新たに開講し、担当しています。Bゼミでは、もう一度法律を

学び直したいとの意思をもつ学生と一緒に、民法の教科書（道垣内弘人・リーガルベイス民法入門〔第3版〕（日本経済新聞出版社、2019年））、法学検定試験委員会編・法学検定試験問題集（商事法務、2020年）等を使用して勉強しています。Bゼミ生たちは、「時間がほとんど全ての問題を解決してくれる」を合言葉に、2020年11月29日（日）に行われた法学検定試験（ベーシック〈基礎〉コース）にチャレンジしました。結果は、9名が受験し、7名が合格（Bゼミの合格率は77.7%：全国平均は65.5%）、うち4名は「Excellent合格」（60点満点中48点以上）でした（愛知大学ホームページ2021・1・20「学生活動」に記事が掲載されています）。法学検定試験委員会の委員長は、愛知大学名誉教授の新堂幸司先生です。

法学部生の学習戦略は、学界および法曹界において、教育・研究の指針として高い評価を得ています。財団のご支援、法学会および法学部の先生方のご協力（民法、刑法、商法、民事訴訟法のスタッフによる事前打ち合わせを何度も行いました）がなければ、かかる成果を公表することは難しかったと思います。心よりお礼申し上げます。



Aゼミ（民事訴訟法）の演習風景



Bゼミ（法的素養）法学検定試験合格者

「奨励賞」授与式

※新型コロナウイルス感染症拡大、緊急事態宣言発出のため、安全面を配慮し、2021年3月6日に予定していた式は中止し、栄えある賞を受賞された皆様には、別途、賞状・記念品を送付しました。

社会・文化・学術・芸術・スポーツ・社会貢献などの分野において活躍し、成果をおさめた個人及び団体に対し、その栄誉を称え、一層の励みとすることを目的に顕彰を実施しました。同窓生である中日ドラゴンズの祖父江大輔選手が最優秀中継ぎ投手賞に輝かれたのをはじめ、各分野で活躍されている下記の方々を受賞されました。新型コロナウイルス感染症拡大により、部活動大会の多くが中止となり、受賞の機会が奪われてしまったことは非常に残念でした。そうした中ですが、少林寺拳法部の経済学部4年（2020年度時）田家涼太郎君は優秀な成績を収め在学中の4年間毎年、最優秀奨励賞に輝く快挙を成し遂げられました。



©中日ドラゴンズ

後援会奨励賞	スポーツの部〈団体〉	優秀奨励賞 1団体	奨励賞 3団体
	スポーツの部〈個人〉	最優秀奨励賞 1名（少林寺拳法部 田家涼太郎君）	
		優秀奨励賞 2名	奨励賞 15名
	マネージャーの部	奨励賞 1名	学術・文化の部〈個人〉 奨励賞 1名

同窓会奨励賞	〈個人〉 最優秀奨励賞	祖父江大輔氏（2020年最優秀中継ぎ投手賞受賞）
	優秀奨励賞	梶村太市氏（司法界のための書籍出版、地域振興のための書籍出版及び同窓会活動等幅広い社会貢献） 吉井忠氏（国際協力機構（JICA）ベトナムの廃棄物処理貢献） 佐藤友梨氏（サービス接遇検定準1級 優秀賞受賞）
	奨励賞	加古文雄氏（出版 吉良家800年—広禄事件の真相—創作され続けた忠臣蔵）

同窓会資格試験 合格者奨励賞	〈司法試験〉	高羽耕介氏、高橋祐太氏、森舞子氏、鈴木建瑠氏、田中修次郎氏、近藤圭悟氏、後藤新太郎氏
	〈公認会計士〉	野邑慎氏、高木翔太氏 〈司法書士試験〉 羽多野健一氏、原佑太氏 〈税理士試験〉 稲垣真衣氏、岩下弘享氏



教育活動の支援

「奨学金」授与式

2020年12月5日 愛知大学名古屋キャンパスで実施

名古屋キャンパス講義棟10階L1003教室において、2020年度奨学金授与式を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の中、学生が経済的理由で勉学をあきらめることなく、希望ある未来を目指してもらうことを願い、一般奨学金の枠を広げて、合計99名の学生に奨学金を授与しました。受賞者を代表して、各分野の3名から感謝の言葉や抱負が語られました。

奨学金給付実績

一般給付奨学金	56名	知を愛する奨学金	5名
法科大学院特別奨学金	3名	後援会学業奨励金	22名
後援会私費外国人留学生給付奨学金	13名		

法科大学院特別奨学生

2019年度入学生 太田 寧々

このような場でご挨拶をする機会をいただき、とても嬉しく思います。愛知大学法科大学院1L生の、太田寧々と申します。

私は愛知大学法学部に在学していたため、愛知大学の法科大学院は、講義内容や進級認定が厳しいことを知っており、そのような厳しい環境の中で自分はやっていけるか不安でした。それでも私がこの大学院に入学したいと考えた理由は、愛知大学法科大学院の特長である少人数教育によって、学生同士や、学生と先生との距離が、他の法科大学院と比べて格段に近く、司法試験の合格率が高かったからです。しかし、私が順調にここまで来ることができたとはいえません。私は昨年度、自分から積極的に勉強することができず課題をこなすのに精一杯で、留年を経験しました。その結果、先生方や先輩方、両親といった応援し、協力してくれる人たちの期待に応えられず、大きな後悔をしました。この苦しみは勉強をして自分に自信を付けることでしか消すことができないと考え、とにかく勉強をしようと思いました。それから私は、その後悔と反省を活かし、勉強への取り組みを見直すことにしました。そして、勉強において最も大切なことは、自分で考える努力をすることだということに気がきました。誰かに知識を教わったとしても、それを自分の頭で咀嚼して、その噛み砕いたものを吸収する必要があります。昨年の私が失敗した原因は、このことが十分にできていなかったためでした。自分で考える努力をするようになってからは、昨年の自分と比べて成長していることを実感できるようになり、少しずつ自信をつけることもできました。そして、私が留年という挫折から立ち直れたのは周りのサポートもあったからでした。今後はより厳しい道のりになっていくと思いますが、それを乗り越えて必ず、弁護士になりたいと思っています。



法曹という仕事は、他人同士の喧嘩を解決するお手伝いをする仕事だと思っています。法曹の中で、そのお手伝いをするのが最も多く身近に感じてもらえるのが弁護士であると思います。そして、頼ってくださった方と真摯に向き合い、心に寄り添うことのできる弁護士という仕事は、とても魅力的です。だからこそ、自分もそのような弁護士になりたいと思っています。

最後に、素晴らしい環境で勉強に励むことができること、支えてくれている方々に感謝して、慢心することなく精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

知を愛する奨学生

文学部1年(2020年度時) 柳 飛向

本日はこのような場で挨拶をする機会をいただきありがとうございます。私は文学部一年生の柳飛向です。私の実家は広島にあり今は豊橋で一人暮らしをしています。この奨学金はその下宿生活の大きな支えになっておりとても感謝しております。一人暮らしの中で私がどれだけ両親に頼り切っていたか実感しました。ですが半年たって料理と洗濯は少しずつスキルアップを実感しています。

勉強面では私は図書館司書の資格獲得のために専用のコースを取って勉強しています。二年次には必ず図書館情報学コースに入るためにこの一年次はしっかりと単位を獲得し、なるべく高成績で納めるために毎日の授業と課題をしっかりと十分な内容でこなしたいと思っています。また最近では部活動も始め毎週ソフトテニスをプレイして友好関係を広げられるように努力もしています。まだコロナウィルスのせいで一人ですが頑張ろうと思っています。この愛知大学での学校生活を通して、全国どこに呼ばれても活動することができる図書館司書になりたいです。まずはそのために図書館司書の資格を取り、そしてコミュニケーション能力を高める努力をしていきたいです。



この制度を見つけてくれた両親に最大限の感謝をしてそれに恩返しできるように今日のこの会を機に心機一転頑張ろうと思っています。



教育活動の支援

後援会私費外国人留学生給付奨学生

国際コミュニケーション学部4年(2020年度時) 刘 念

この度は、愛知大学教育研究会支援財団「後援会私費外国人留学生給付奨学金」に採用いただき、誠にありがとうございます。2017年4月、舞い散る桜を見て入学した時から一瞬の時間が流れ、今年の4月からは就職活動を本格的に始め、また卒業に向けて卒業論文の作成を進めて参りました。最初大学に入る時、日本の大学はどのような授業を選択するのか、先生はどんな感じの授業をするのか、全然知らなくて、毎日緊張して授業を受けてきました。今はもう、完全に大学の生活に慣れました。興味深い授業を受けて、毎日楽しく興味津々で授業を受けました。この4年間私は授業を受けながら、友達もたくさんできました。友達の影響で、私は日本文化への理解も深くなって、日本社会に溶け込んでいきました。異文化交流する時には、私も柔軟性を持つようになりました。今年奨学金を頂けることは、とても感謝しています。今年はコロナの影響でアルバイトが急に減り、企業の面接が授業と重なってしまったり、卒業論文に苦戦したり、学費に充てることが難しい状況にありました。そのような中で奨学金をご支援いただいたことで、精神的な余裕もでき、面接練習に専念した結果、無事に内定を頂くことができました。また、奨学金に採用していただき、経済的な負担が減り、時間的余裕を持てるようになったので、卒業論文も今現在かなり完成に近付いており、自分が納得できる卒業論文を、専念して完成させたいです。



今年度で最後になる学生生活を、悔いの残らぬように勉強に励みつつ、友人との時間も大切に過ごしたいと考えております。また、愛知大学の卒業生として、これから明るく元気に、何事にも一生懸命に取り組み、恥ずかしくない立派な社会人になれるように頑張ります。最後に、ご支援いただいている全ての方に重ねてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対応にかかる2020年度新規追加事業について

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みて、応急奨学金の拡大や学術講演会等助成のウェブ(オンライン)活用と、直接海外に出向くことが困難な後援会海外研究実習についてウェブ(オンライン)を活用した研究実習と認められる事業も助成対象とするなど、助成の対象を拡げましたが、2021年度も続けてまいります。

学生への支援では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大学に入学し下宿等を確保したものの、遠隔授業の実施等により就学後下宿を活用できず、新しい生活基盤が十分に築けずにいた1年次生に対し、「1年次学生下宿生活支援助成」、また、同じく、大学入学が決定したものの、大学への通学が叶わなかった1年次外国人留学生についても、「1年次外国人留学生教学支援助成」を行ってまいりました。

この支援は2020年度のみとなりますが、今後につきましても、学生等を取り巻く状況に応じ、必要な支援を臨機応変に行ってまいります。

●1年次学生下宿生活支援助成金

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への経済的状況を鑑み、大学入学に当たり下宿を確保したものの、就学後下宿を十分に活用できずにいる1年次学生に対し、1人20,000円の生活支援を行いました。(77名に支給)

●1年次留学生教学支援助成金

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への経済的影響を鑑み、本学留学が決定したものの遠隔授業により本学への通学が出来なかった1年次留学生に対し、1人20,000円の教学支援を行いました。(12名に支給)

キャリア教育事業助成金

・産官学連携キャリア育成プログラム、3大学合同WEB異文化交流プログラム

その他の知のミーティング、海外研究実習助成、教育活動助成、課外活動特別奨励などの事業を実施

国際シンポジウム「文書提出命令の比較法的検討」(オンライン実施)への助成をはじめ、学生が各種大会へ参加する経費等の助成を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの大会が中止となり、また、海外研究実習についても現地訪問が叶わない状況となりました。そうした制約がある中で、「2020年度現地インターンシップ報告会」では、オンライン活用によりグループワークや調査・研究を行い、素晴らしく立派な成果報告を成し遂げられました。苦難を見事に成果とされた学生たちの努力と課題に真摯に取り組む姿勢、また、情勢に的確に対応されご指導に当たられた先生方に、心より敬意を表します。



報告会における加藤理事長挨拶

寄附金名簿

※(順不同・敬称略)

◆法人

愛知大学後援会
愛知大学同窓会
愛知リーガルクリニック法律事務所
宇都宮工業株式会社
株式会社うぼん
株式会社えびせんべいの里
株式会社 ガード・リサーチ
木村産業有限会社
CANホールディングス株式会社
近畿日本ツーリスト株式会社
株式会社クイックス
ジャニス工業株式会社
西濃運輸株式会社
デュプロ販売株式会社
税理士法人 東海浜松会計事務所
トーテックフロンティア株式会社
トクデンコスモ株式会社
トヨタカローラ名古屋株式会社
名古屋トヨペット株式会社
日本音楽出版株式会社
(株)ナショナルメンテナンス
ネットトヨタ東海株式会社
藤岡倉庫株式会社
株式会社フューチャーイン

公益財団法人 古川知足会
株式会社 ベストライフ
株式会社 マルホ
明治電機工業株式会社
株式会社 名大社
ユーターケー工業株式会社
株式会社 Re・lation

◆個人

青 野 吉 伸
荒 木 仁 子
石 川 光 男
伊 藤 広 済
稲 垣 信 行
岩 田 喜 久
内 山 隆 司
遠 藤 精 基
岡 村 幹 吉
加 藤 孝 雄
加 藤 春 雄
加 藤 満 憲
鎌 田 史 郎
岸 田 充 広
國 島 芳 明
熊 谷 友佳理

甲 村 洋 子
小 林 進之輔
酒 井 強 次
酒 井 美代子
佐 藤 隆 子
下和田 恵 男
庄 田 元 久
菅 野 隆
菅 原 宜 彦
杉 本 みさ紀
鈴木 孝 一
鈴木 智
竹 島 良 祐
竹 島 まこと
武 田 秀 則
多 田 譲
土 井 義 昭
唐 啓 山
鳥 越 剛
那 須 國 宏
西 川 米 子
橋 本 正 洋
土 師 幸 夫
長 谷 川 勲
長谷川 信 義
林 一 義

林 昇 平
林 行 孝
速 水 利 行
久 里 和 英
平 井 治 彦
平 岩 保
廣 重 美和子
藤 井 千恵子
藤 井 明 雄
藤 岡 勢 理
堀 田 正 二
堀 田 久 富
堀 木 ヒロミ
松 井 淳 子
松 下 真由美
松 野 博 美
森 繁 美
安 井 健 治
安 井 博 子
山 崎 恵 子
山 田 功
山 本 薫 忠
吉 井 達 生
脇 水 信 敏
和 田 義 則
湯 山 義 則

皆様からお寄せいただいた温かいご支援に心よりお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

※本財団に寄附した年会費及び寄附金は、法人税・所得税・名古屋市企業寄附促進特例税制の優遇の対象となります。(詳しくは、税務署、名古屋市へお問い合わせください)

「感謝状」贈呈式

2020年12月5日愛知大学名古屋校舎で実施

公益財団法人愛知大学教育研究支援財団は、発足以来、同窓会及び後援会からの寄付に加え、企業や個人会員の皆様からの寄付を始めとするさまざまな形でののお力添えにより、事業を実施しており、お陰様にて順調に教育研究支援を進めて参ることができ、心から感謝を申し上げます。こうしたご厚意に報いるべく、寄付者に奨学金を授与した学生の抱負等を直接お届けしたいとの思いから、2020年12月5日(土)の奨学金授与式にご招待し、その後引き続いて、名古屋校舎研究棟20階M2003教室において、感謝状贈呈式と感謝の集いを開催しました。



【感謝状贈呈】

(法人) 宇都宮工業株式会社様、明治電機工業株式会社様、日本音楽出版株式会社様
(個人) 土井義昭様、湯山義則様

2012年11月、より地域社会に貢献する人材の育成を重視した財団として、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」を設立いたしました。本財団は、愛知大学における学術研究及び教育活動を支援し、もって広く学術の発展と教育の充実、不特定多数の利益の増進に寄与するための事業を実施しています。ひとりでも多くの研究者や学生、ひとつでも多くの事業に助成が活かされることを願って、幅広く応募の機会を開いています。これらの事業は、同窓会費・後援会費を始め、広く一般企業・個人の皆様の会費・寄附を貴重な原資としております。今後とも活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

■財団の基本情報

名称	公益財団法人愛知大学教育研究支援財団
設立日	1965(昭和40)年9月7日(財団法人 愛知大学同友会)
移行日	2012(平成24)年11月1日
代表者	理事長 加藤満憲
事務局	〒461-8641 名古屋市東区筒井2-10-31
電話番号	(052)937-8156
FAX	(052)937-8157
e-mail	kouyu@aichi-u.ac.jp
ホームページ	http://www.aichi-u.ac.jp/aers

◆ 学長・後援会会長ごあいさつ ◆

愛知大学 学長 川井 伸一

昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により私たちの生活は多大の影響をうけました。本学においても、昨年春以来、キャンパスへの入構制限、授業のオンライン化、課外活動の制限、一部職員のリモートワークなどの措置をとり、就職活動もオンラインによる就活となり、就職難へと様変わりしました。本来、学生と教職員がキャンパスに集まり、対面で授業を行い、対面の交流とグループ活動を当然のこととしていた大学生活の姿を根底から変えてしまいました。他方で、コロナ禍のなかで私たちはいろいろ経験し、大学のあり方について考えることができたことも確かです。コロナ感染対策として採用したオンラインには、空間と時間の壁を容易に越えて情報を伝達できるという利点があり、それを活かした教育の選択肢を拡大できることが分かりました。また学生たちが対面で語り合い、議論を深め、友情を育み、人間関係を豊かにすることが大学として基本的に重要なものであることを再認識しました。

今回のコロナ禍は社会のデジタル化の歩みを大きく促進させたといえます。こうした変化のなかで、本学は建学の精神を踏まえて特色ある教育内容をさらに強化し、学生の学びの力を伸ばし、学習成果を学生・ご父母はじめ関係者に説明することが求められます。

今回のコロナ禍は社会のデジタル化の歩みを大きく促進させたといえます。こうした変化のなかで、本学は建学の精神を踏まえて特色ある教育内容をさらに強化し、学生の学びの力を伸ばし、学習成果を学生・ご父母はじめ関係者に説明することが求められます。

本学は本年3月に第5次基本構想(2021-2025年度)を制定し、その基本目標と取組内容を定めました。基本目標は第一に、社会の変化やニーズに対応した質の高い多様な教育プログラムを整備し、本学の教育の質を向上させることです。教育の質を担保するために教学マネジメントの整備、教学システムの改革等を追求します。第二に、愛大の特色を活かした教育・研究活動のいっそうの推進を図ることです。愛大の特色については、これまでの実績のある海外現地体験型教育、地域連携型教育、外国地域や地域マネジメント等の研究、公務員教育、法曹教育等をいっそう発展させ、ブランドの強化を図ります。第三に、大学コミュニティの多様性、構成員のさまざまな活発な活動を推進することです。第四に、本学の経営力の強化です。本学のもつさまざまな経営資源を充実させるとともに、それを効果的に組合せ教職員の意識の共有と協働を進めることです。

本学の教育研究事業に対しては日頃、本学の同窓会、後援会、教育研究支援財団からご理解とご支援を頂いています。これに心より感謝するとともに、引き続きそれぞれとの連携を維持、強化していきたいと願っています。

profile

川井 伸一

1951年 東京都生まれ
1983年 東京大学大学院国際関係論
博士課程単位取得退学
1988年 (財)日本国際問題研究所研究員
1990年 在中国日本大使館
2009年 愛知大学経営学部長・
学校法人愛知大学理事
2011年 愛知大学副学長・学校法人愛知大学常務理事
2015年 愛知大学学長・理事長・愛知大学校友センター長(現在に至る)



愛知大学 後援会会長 坂野 嘉昭

この度は、愛知大学教育研究支援財団の機関紙「睡蓮」第8号の発行にあたり、愛知大学後援会会長として心よりお喜び申し上げます。財団の目的は、愛知大学における学術研究及び教育活動を支援し、もって広く学術の発展と教育の充実に寄与することとしており、支援を受けた方々が「社会で活躍できる優れた人材を育成する」大きな原動力になっています。学生の保護者としても、財団の教育研究支援活動には大変感謝しています。

ここで、財団が目指す「社会で活躍できる優れた人材」とは、どのような人を指すのでしょうか。まずは「社会」という概念から考えてみます。「社会」を「人と人が関わり合い、生活を営む集団である」と考えると、身近で言えば、「家族」「地域(ご近所・自治会)」などでしょうか。さらに広げて考えてみると「市町村」「都道府県」「国」「世界」など、大きな範囲になります。最近では、人と人の関わり方も変化してきました。IT技術の飛躍的な発展により、時間や場所など枠組みを超えて、多くの人と関わり合うことができます。また、不幸なことではありますが、新型コロナウイルス感染症拡大は人と人の関わり方を大きく変化させたと実感される方もいると思います。

次に「活躍できる」という概念も考えてみます。「活躍」を「自分の才能や経験を生かし、いきいきと活動できること」と考えると、「仕事」「ボランティア」「社会貢献事業」などでしょうか。今までは、活躍していくには、「関わる相手」「時間」「場所」などが限定されるケースが多かったと思います。これも先ほどの「社会」同様、「活躍」の手法も大きく変化していくと思います。社会情勢や経済情勢は複雑化・多様化しています。「人と人が関わり合い、生活を営む集団である」社会を私たちは、次の世代に繋げていく必要があります。そのためには、技術革新を始めとした「ハード」面での進化も必要ですが、技術に「使われる」のではなく、「使いこなす」という「ソフト」面での進化も求められています。時代は変化しても、社会が存在する以上「人と人の関わり」が無くなることはありません。

今後の財団の教育研究支援活動により、「人と人の関わり合う」ことの大切さを理解した方が増え、また、身に付けた知識や才能を伸ばすことができる場(社会)のエンジンになってほしいと思います。エンジンは表には見えません。しかし、「無くてはならないもの」です。その点でも、「愛知大学」で学んだ方々は社会の「エンジン」として多方面で活躍しています。今後も、学生やその関係者の方々が社会で活躍する姿を見ることができるよう、後援会としても財団を支援していきたいと思っています。

profile

坂野 嘉昭

昭和46年7月20日生まれ
愛知県大府市在住 49歳
平成2年4月 愛知大学文学部社会学科
社会学専攻入学
平成6年3月 同校卒業
平成6年4月 愛知県大府市役所入庁
現在に至る。



◆ 同窓会会長・財団理事長ごあいさつ ◆

愛知大学 同窓会会長 土井 義昭

愛知大学同窓会は、2022年に設立70周年を迎え、15万人を超える同窓生が社会の構成員として様々な分野で活躍してきました。現在の会員数は約9万5千人程ですが、同窓会活動の拠点は地域ごとに区分する支部と、属性別にグループ化した部会により構成され、それぞれの単位で会員相互の親睦が図られています。これは同窓会の主な目的とするところですが、あと1つの大きな目的は、愛知大学の隆昌発展に寄与することです。同窓会の組織力を生かして、側面からの様々な支援を行っております。記憶に新しいところでは、昨年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大学の教育研究の環境が損なわれ、学生に至っては家計支持者の収入激減や、アルバイト収入減少

等で修学の継続が難しくなる事例が伺われましたが、これらの対応策として大学が緊急経済支援制度を創設し、「新型コロナウイルス感染症対策緊急募金」として対外的に協力要請が公示されました。同窓会ではいち早くこれに応じ、会員に対して協力の呼び掛けを行った結果、多くの金額を集めることができました。これは応急的な支援ですが、恒常的な大学への財政支援として、公益財団法人愛知大学教育研究支援財団（以下、「公益財団」）への寄付により教育研究活動への有効活用を推し進めています。

その中で代表的な奨学金として「知を愛する奨学金」があります。これは、勉学意欲の高い東海四県以外的高等学校出身者を全国から募集し、一般入試を受験・合格し、愛知大学に入学した学生を対象に奨学金を給付するものです。全国から優秀な学生を集めることによりブランド力を高めたいとの思いから、各地域の同窓生による高校訪問が盛んに行われています。

愛知大学の「第5次基本構想」において、「学生のキャリア開発・形成支援」が重点項目に掲げられています。公益財団は従来から「キャリア教育事業助成金」として就職プログラム実施のための支援を行っており、同窓会は学生・新卒者が参画するキャリア・アドバイザー制度「Ai-CONNEX」（アイ・コネクス）への組織的な連携を図っています。

今後も「物心両面」による支援の象徴として、愛知大学同窓会は公益財団を通して大学を支えて行きたいと考えております。

profile

土井 義昭

愛知県豊川市在住
昭和35年3月 愛知大学法経学部
経済学科を卒業
昭和47年7月 宇都宮工業株式会社
代表取締役社長に就任、
平成28年6月より取締役会長に
就任し、現在に至る。

平成25年11月 ユーティーケー株式会社 代表取締役会長（現相談役）、同窓会活動としては、豊川支部支部長、同窓会（本部）副会長を務めた後、平成26年11月より同窓会会長に就任、3期6年を経て現在に至る。この間、愛知県私立大学同窓会連合会会長を歴任、平成28年6月より（公財）愛知大学教育研究支援財団理事（現職）



公益財団法人 愛知大学教育研究支援財団理事長 加藤 満憲

公益財団法人 愛知大学教育研究支援財団は来年、設立10周年を迎えることとなりました。これもひとえに大学・後援会・同窓会及び法人・個人会員の皆様の深いご理解と温かいご支援の賜物と心より御礼申し上げます。この間、当財団は「大学及び学生達への教育学術研究助成・奨学金・学生支援など諸事業を行い、一定の成果を収め、当初の目的実現に寄与すること」を追求して参りました。

今日の財団を語る上で前身の財団法人愛知大学同友会の設立経緯と存在は決して忘れてはならないものであります。同友会は1965年9月16日に当時の文部省より設立を許可されました。奇しくも私が愛知大学に入学した年であります。設立にあたって、法的権利や能力を有しない同窓会では活動に限界があるとして、主として青木光利氏（1956年卒）が行政官庁への折衝にあたられました。当時、同窓会が中心の法人設立は前例がないこと、また、財団法人認可の条件であった1億に程遠い基本財産5百万円での申請など、認可までのご苦労は如何許りであったかと拝察いたします。結果、東亜同文書院大学を前身とする愛知大学の設立趣意書にある「アジア諸国の学術研究発展に寄与する人材を育てる」という壮大な理念への共感を得られたことと幹部の方々の並々ならぬ熱意によって結実にいたったのです。このことは同窓会の活動の質を高め、幅を拡げることの助けになり、結果として、愛知大学創設者 本間喜一郎先生が「同窓会が公益法人を作って大学を応援してくれる、それは大変有難いこと」と頌したように、大学にとってもまさに「天からの贈り物」となりました。その後、歴代の同窓会役員方々のご尽力により2007年には総資産額1億8千万円余に達したのです。

今日、未曾有のコロナ禍において、私たちは人類の営みが大きく変わる地球規模の転換点に直面しています。この世界をどう生き抜いていくのか、今一度、原点に還り、見つめなおす必要に迫られているのかも知れません。

そんな厳しい状況において、数多ある大学同窓会の中でも傑出した存在であった財団法人愛知大学同友会の志を受け継ぐ公益財団法人 愛知大学教育研究支援財団。その存在理由は母校・愛知大学が「社会で役立つ多くの有能な人材を育成、そして輩出する」ための推進力になることであり、そのミッションはますます重要性を増しております。その期待に応えるためにも当財団は今後一層、力強く行動して参る所存でございます。引き続き力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

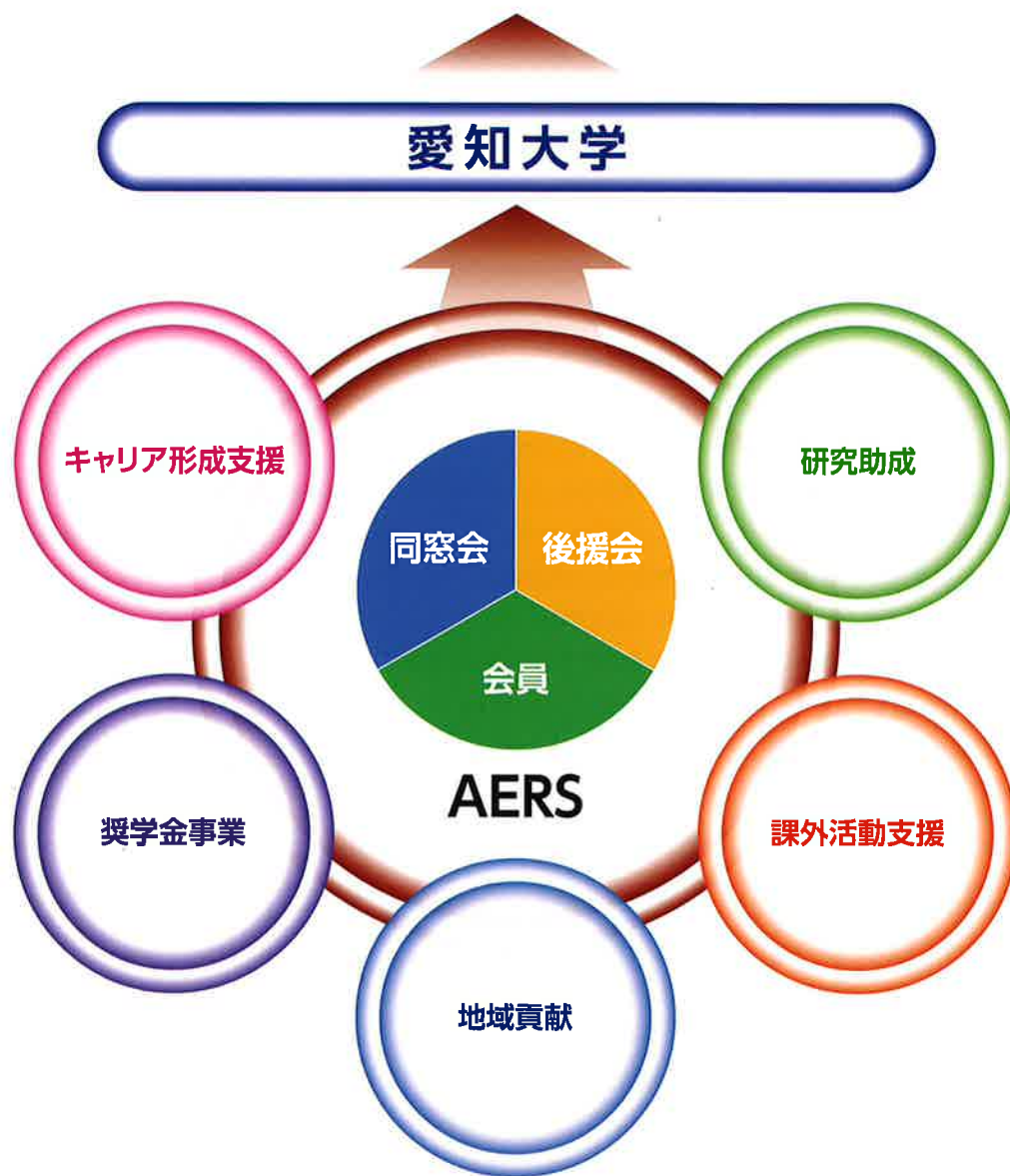
profile

加藤 満憲

生年月日 1947年3月13日（満74歳）
最終学歴 愛知大学法経学部 1969年卒業
現在の職業 日本音楽出版株式会社
代表取締役社長（現在に至る）
公益財団法人愛知大学
教育研究支援財団理事長
2013年11月30日就任（現在に至る）



社会で活躍できる優れた人材の育成



知で生きる人へ。

公益財団法人 愛知大学
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION